

ターンテーブルアキュライザーの活用(4)
—TANNOY Autograph MINI—

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、ターンテーブルアキュライザーの導入シリーズでその効果を確認してきました。さらにスピーカーシステムを替えて効果の確認をいたします。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴方法

今回はPX25シングルアンプ駆動のTANNOY Autograph MINIのシステムで試聴します。

LP-12によるTANNOY Autograph MINIの試聴は[LINN LP-12の再構成\(28\)](#)で報告しています。

ThorensTD124によるTANNOY Autograph MINIの試聴は[ThorensTD124の活用\(4\)](#)で報告しています。

使用するプレーヤーの最新の状況はそれぞれ以下で報告しています。

LINN LP-12

[LINN LP-12の再構成\(32\)](#)

[LINN LP-12の再構成\(34\)](#)

ThorensTD124

[アナログプレーヤーの比較試聴\(18\)](#)

Garrad401

[アナログプレーヤーの比較試聴\(18\)](#)

今回試聴する音源は以下のとおりです。

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の試聴結果

再生時には、上記のアナログプレイヤーに TACU-1 をセットし、LINN LP-12 と ThorensTD124 においては、24 の奇想曲と選帝侯のソナタは、TELDEC、逆相、第 4 時定数 High で、ワルキューレは DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 では、24 の奇想曲は、タンノイらしい艶のある音色で過不足のない表現です。試みに TACU-1 を外したところ、肌理が粗くなり、幾分ヒステリックな音もできます。

選帝侯のソナタは、低域の伸びは期待できませんが、高域の煌びやかさや全体によく響いたまとまりの良い音です。試みに TACU-1 を外したところ、高域の煌びやかさや響きの良さが後退します。

ワルキューレは、スピーカーサイズの関係から、低域はこもりがちですが、解像度もあり、ミニチュアサイズのステージ感が再現されています。

ThorensTD124 では、24 の奇想曲は、SPU のカートリッジとタンノイの相性の良さが出て、切れ込みと膨らみが両立した音です。

選帝侯のソナタは、これも SPU のカートリッジとタンノイの相性の良さが出て、スピーカーのサイズを感じさせない、打鍵音もしっかりしたおおらかなピアノの鳴りようです。

ワルキューレは、スピーカーサイズの関係から、低域はこもりがちですが、SPU のカートリッジとタンノイの相性の良さが出て、解像度もあり、スケール感もあるステージ感が再現されています。

Garrad401 では、24 の奇想曲は、ThorensTD124 より後退していますが、タンノイらしい切れ込みと膨らみのある音が聴けます。

選帝侯のソナタは、これも ThorensTD124 ほどではありませんが、打鍵音もしっかりした響きの良い音です。

ワルキューレは、スピーカーサイズの関係から、低域はこもりがちで、解像度もあり、ThorensTD124 ほどではありませんが、ステージ感が再現されています。

4. まとめ

3 システムとも、TACU-1 の適用により、スピーカーのサイズからスケール感のある表現の期待は無理ですが、全体にまとまりの良い音で、特に ThorensTD124 の場合は、SPU のカートリッジとタンノイの相性の良さが感じられます。TACU-1 の有無の差もしっかり聴き取れます。

以上